



一般社団法人日本物流団体連合会
Japan Association for Logistics and Transport

〒100-0013
東京都千代田区霞が関3丁目3番3号
全日通霞が関ビル5階
TEL:03-3593-0139
FAX:03-3593-0138
URL:www.butsuryu.or.jp

News Release

平成29年1月26日

「新年の物流を語る会」及び「新年賀詞交歓会」を開催

一般社団法人日本物流団体連合会（会長：工藤泰三）は、平成29年1月24日（火）、海運ビルにおいて「新年の物流を語る会」及び「新年賀詞交歓会」を開催した。

「新年の物流を語る会」の冒頭、工藤会長は挨拶の中で、アベノミクス以降、有効求人倍率は飛躍的に伸びており、日本のバブル期以上の状況になっているが、労働力不足問題を考えると、物流業界の労働生産性が他の業界と比べて大丈夫かと一抹の不安を覚えると語った。労働生産性を上げるためには荷主さんの協力も必要であるが、物流事業者が生産性を上げる提案をしていけるかどうか物流業界の生き残りのカギだと述べた。

挨拶の後、（公社）全日本トラック協会、日本貨物鉄道㈱、（公社）全国通運連盟、日本内航海運組合総連合会、（一社）日本長距離フェリー協会、全日本空輸㈱、（一社）国際フレイトフォワードーズ協会・（一社）航空貨物運送協会、（一社）日本倉庫協会、（一社）日本船主協会の代表者が、それぞれ前年の回顧と新年の展望・抱負を語った。

その後、約320名の出席による「新年賀詞交歓会」が開催された。

来賓の石井国土交通大臣からは、物流は日本経済、国民生活を支える重要な産業であり、災害時には緊急物資輸送を担っており、重要な社会的責務があるが、人口減少等、将来の担い手の確保には大きな課題もある。職場環境改善、賃金の引き上げ等、官民一体となって処遇改善に努めなければならない。国土交通省は、生産性革命前進の年と位置付け、共同輸配送の実現、手待ち時間の削減、モーダルシフト等で仕組みの上での支援をし、全体的輸送効率を高めるよう進めていく。今年は、総合物流施策大綱を見直し、担い手の確保、生産性向上等について、基本の方針を示していくと力強い挨拶があった。

この新年の二つの行事の参加者は、昨年より増えており、盛況な会となった。

以上

事務局：西城

○新年の物流を語る会



▲新年の物流を語る会風景



▲新年の物流を語る会風景

○新年賀詞交歓会



▲工藤会長の主催者挨拶



▲石井国土交通大臣の来賓挨拶



▲新年賀詞交歓会の風景



▲新年賀詞交歓会の風景